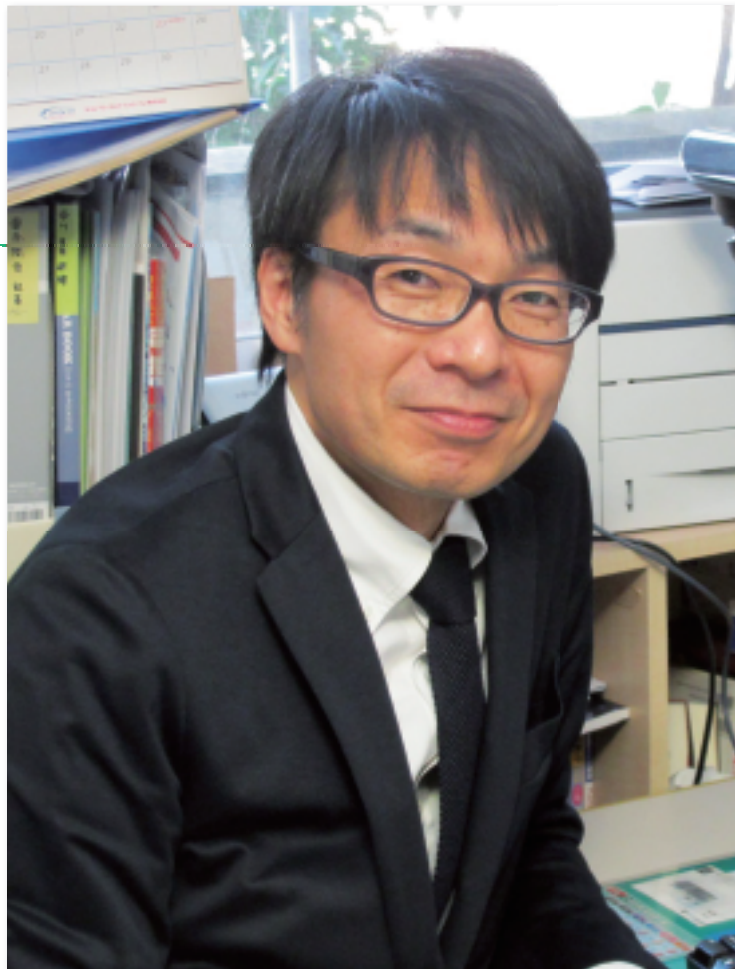


岡田 浩氏

OKADA Hiroshi

国立病院機構 京都医療センター
臨床研究センター 予防医学研究室

保険薬局の薬剤師による療養指導が糖尿病患者のHbA1cにどのような影響を与えるのか——。京都医療センター臨床研究センター予防医学研究室の岡田浩氏はこの疑問を明らかにするため、複数の薬局を対象にランダム化比較試験（RCT）である「COMPASSプロジェクト」を実施した。薬剤師による療養指導の効果をRCTによって検証したのは国内初で、介入群の患者では対照群に比べてHbA1cが低下したという結果が出された。岡田氏はこの研究により、今年アムステルダムで開催された国際薬学会議（FIP）のPoster Awardを受賞。「薬剤師による効果的な支援は血糖コントロールや療養行動に良い影響をもたらす。患者さんの状態が良くなることで、薬剤師のやりがいにもつながるのではないかと語る岡田氏に、COMPASSプロジェクトについて話してもらった。



糖尿病療養指導の効果を RCTで検証

—プロジェクトの概要を教えてください。

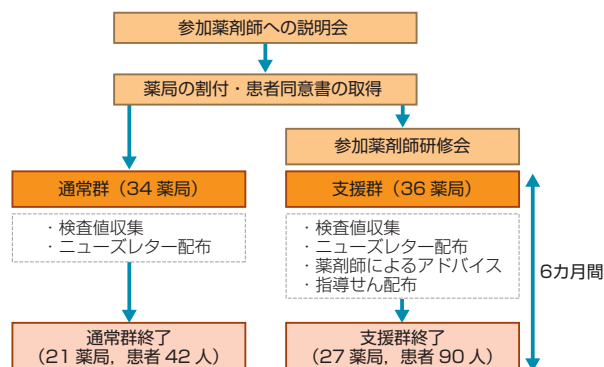
日本では糖尿病患者が年々増加し、1,000万人以上に上るとされます。糖尿病のような慢性疾患は生涯にわたる服薬や療養が必要ですが、適切な療養行動を継続できない患者も少なくありません。われわれは地域の薬局薬剤師が糖尿病患者を支援することで、血糖コントロールや療養への意欲を改善できるのではないかと考えました。

COMPASSプロジェクトは、2型糖尿病患者を対象に、薬局薬剤師による療養指導の効果をみたRCTで、主要

アウトカムはHbA1c、副次アウトカムは療養行動（服薬アドヒアランス、食事、運動）、血圧、脂質、BMIです。また、患者に加えて、支援した薬剤師の意識変化も調べました。

参加してもらった薬局は、ニューズレターの配布のみを行う「通常群」と、指導せんの配布や口頭での情報提供、また歩数計を貸し出す「支援群」に無作為に割り付けました。すでに6カ月間のフォローアップが終了し、最終解析を行っている段階ですが、これまで

COMPASS プロジェクトの概要



- ・COMPASS: Community Pharmacists for Diabetes Intervention Study in Japan
- ・通常群は13薬局が、支援群は9薬局が途中で脱落

のところITT解析では有意差はないものの、HbA1cが0.5%低下する成功率は支援群のほうが通常群よりも約2倍多いことが明らかになっています。

— 支援群の薬剤師の役割を詳しく教えてください。

薬局での療養指導のポイントは、患者の生活状況にあわせた情報提供と療養行動を続けられるような精神的支援です。私もこれまで薬局薬剤師として働き、現在も週1回、薬局で勤務していますが、薬が変わらなくても、薬剤師が患者の精神面を支えることで血糖値が改善するケースをたびたび経験しています。長い療養生活を送る患者にとっては、伴走者がいることが重要だと思います。

そこで、支援群の薬剤師を対象に開いた事前研修では、食事療法や運動療法の基礎知識を説明したうえで、ロールプレイを交えながら、患者がやる気になるコミュニケーションのとり方を伝えました。ポイントは3つで、ステップ1「一緒に問題点を探す」、ステップ2「解決策を考える」、ステップ3「励ましの言葉で締めくくる」。一人ひとりの患者の性格を見極めながら声をかけたり、服薬に対する考えを確認しながら話を進めていくことが大切になります。また参加者には、薬の効果や副作用を延々と話すのではなく、説明は3分以内に終わらせることも伝えました。

— 薬物療法ではない支援でHbA1cが0.5%下がったというのは驚きですね。

そうですね。特にこのプロジェクトで患者登録の対象にしたのはHbA1c 7.5~10%が3カ月以上続く症例ですが、これくらい血糖コントロール不良の方では、食事や

支援群の薬剤師が患者に配布した指導せん（一部）



運動療法などについて間違った考えや知識を抱えていることが少なくありません。ですから、薬剤師からのわかりやすい説明が療養行動の変化につながりやすいのだと思います。支援群の薬剤師には、われわれが作成した指導せんを使ってもらいましたが、これは「運動ができない場合の工夫」、「成功事例トップ5教えてください」、「間食を運動で消費するのは大変！」など、患者に興味をもってもらえる内容にしています。

— 支援した薬剤師の意識も変わりましたか？

フォローアップ開始から30日後と6カ月後に集ってもらい話を聞きましたが、患者から頼りにされるようになり、以前よりもやりがいを感じるという感想があげられました。COMPASSプロジェクトの一環として事前に始めた「YYプロジェクト：薬剤師やりがい向上計画」という別の研究では、薬局薬剤師のやりがいを高める因子を調べました。因子分析の結果、浮かび上がったのが「臨床知識の向上」、「成長感」、「患者からの信頼」の3因子です。この3つは関係が深く、知識が増える→患者から信頼される→成長を実感するというサイクルになっていると思われます。患者を支える経験をすることで薬剤師自らのやりがいにもつながってほしいですね。

COMPASSプロジェクトは今後さらに、高血圧患者を対象にした臨床研究や、自己血糖測定器を用いた糖尿病患者への介入へと発展させていく予定です。また、糖尿病診療の一場面を演劇で再現し、参加者とともにディスカッションする「糖尿病劇場」の取り組みも全国各地で行っていますので、そちらにも興味をもっていただければと思います。（2012年11月8日インタビュー）